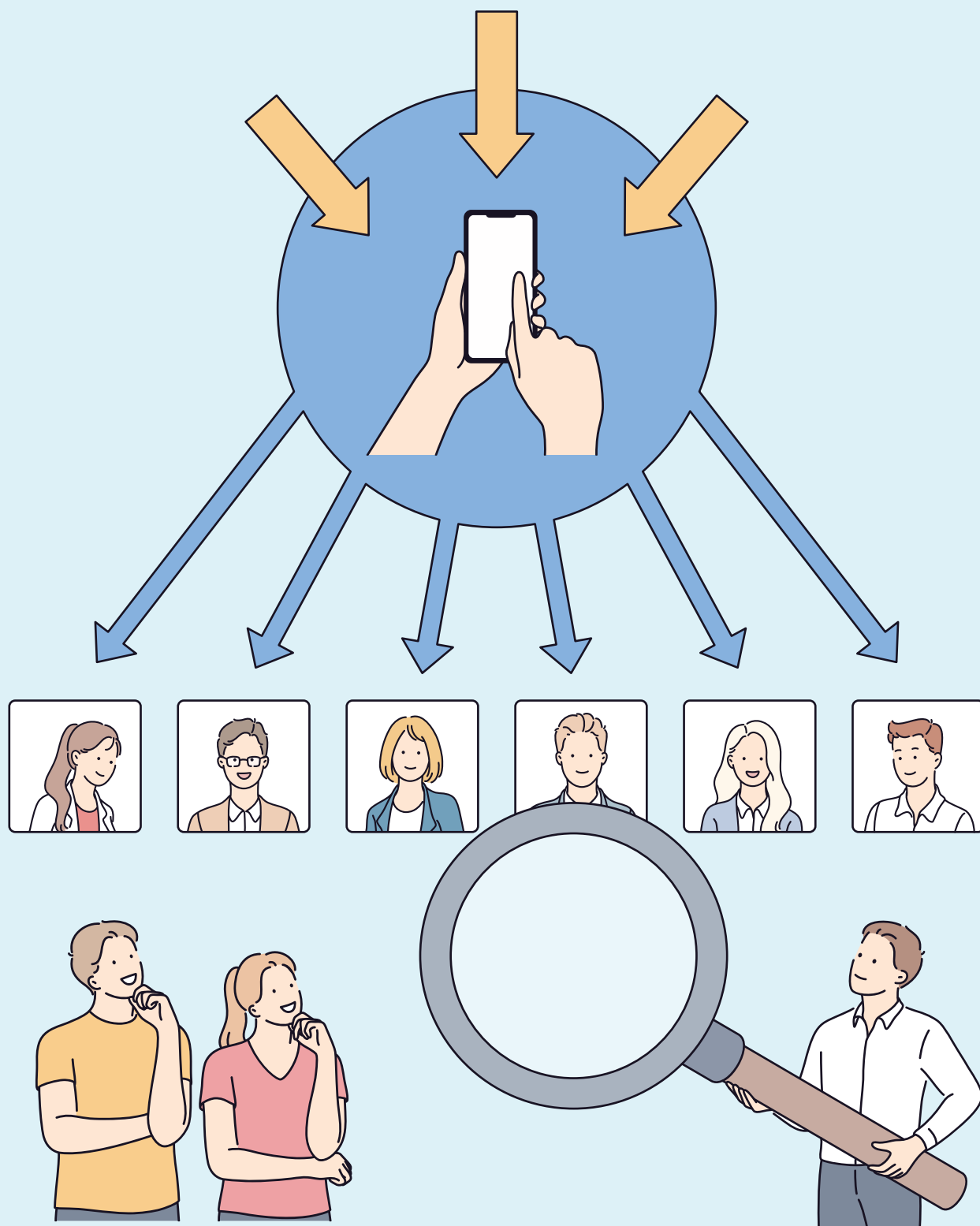


検査結果の見方と接し方



目次

1

検査の種類と内容について	01
基本検査	02
追加検査A	03
ギャップ検査	04

2

検査結果について	05
非認知能力 / ギャップ検査	06
総評 / 提案	07
認知能力 / 状態と傾向	08

3

各指標における評価と提案	09
認知能力についての評価と提案	10
非認知能力についての評価と提案	11
状態と傾向についての評価と提案	17

1

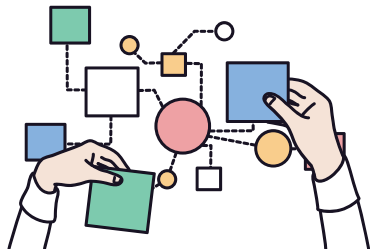
検査の種類と内容について

基本検査

基本検査では、生徒について下記のものを測定しています。

流動性推理

認知能力全体との相関関係が最も高いもので、応用力や思考力もこの中に含まれます。物事を多角的に捉えたり新しい場面に適応したりする能力で、この数値が高いほど、物事を結びつけて考えることができ、問題解決のために思考を巡らせることができることを示しています。低い場合は、物事を結びつけて考えることが苦手なので、1つずつコツコツ学ぶことに向いています。

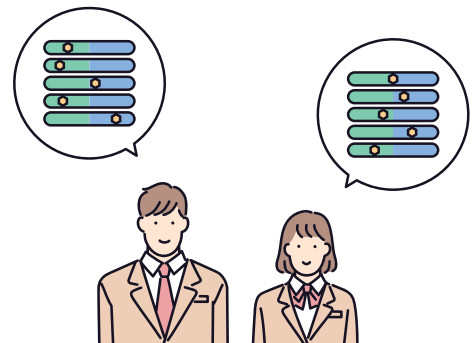


非認知能力 (性格特性)

人間の性格は、

- 勤勉性
- 協調性
- 外向性
- 情緒安定性
- 知的好奇心

の5つの指標の組み合わせにより成り立つとするBIG FIVE理論 (FF理論) に基づき、性格特性を定量化しています。



流動性推理が高い = 学力が高い

で は あ り ま せ ん

流動性推理が高くて、それを活かすことができるように行動していなければ、いわゆる「宝の持腐れ」となってしまいます。学力を伸ばすためには、どのような行動をとるかが重要です。しかし、人にはそれぞれ個性があるので、他の生徒に合っていた方法論が、その生徒にも合うとはかぎりません。だからこそ、性格特性を科学的な視点で定量化することで、生徒の特性に合った接し方・声かけ・指導をしていくことが大切です。

追加検査A

追加検査Aでは、生徒について下記のことを測定しています。

処理速度

単純作業をどれだけ素早く行うことができるかを表すものです。

この数値が高ければ、簡単な計算や作業など（頭の回転を使わなくてもよいもの）を素早く行うことができます。低ければ、読み書きや板書内容をノートに写すなどの作業が遅いので、工夫して補う必要があります。



作業記憶

新しい情報を一時的に保持し、頭の中だけでどれだけ作業ができるかを表すものです。

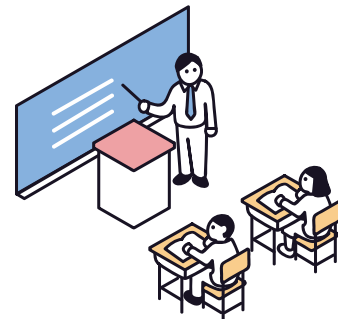
この数値が高ければ、ある程度の文章を読んで考えることや暗算などが得意です。低ければ、それらが苦手なので、重要なことを書き出したり筆算をしたりして、視覚的に見えるようにすることが必要です。



現在の生徒の状態と傾向

- 自己効力感
- 学習に対する意欲や忍耐力
- まわりの環境への満足度
- 学習時の行動や価値観

などを表すものです。



基本検査では、生徒の能力や性格特性と、それに応じた導き方を提示しました。追加検査Aでは、さらに生徒を取り巻く環境や価値観、考え方などの詳細を知ることができるので、「個性＋状況」という視点でより深く、生徒に応じた接し方を考える機会を得ることができます。

ギャップ検査

ギャップ検査では、「先生から見た生徒像」を測定しています。これにより、先生の認識と「本人の性格特性」にどれだけギャップがあるかを見ることができます。

生徒の性格特性にあった教育方法を行う

ギャップが大きい場合は、接し方・声かけ・指導などが生徒に合っていない可能性があります。生徒のためを思って言っていたことや取り組んでいたこと、教育方針などが本人の特性とずれている場合は、

- 生徒の力をうまく伸ばすことができない
- うまくいかない原因がわからない
- 生徒との関係がうまくいかない

などの現象が起こり、先生も生徒も不要なストレスを抱えてしまうこととなります。

さらにそこから負のスパイラルに陥ると、出口が見えなくなることもあります。

対象生徒の【検査結果 概要・詳細】画面に記載されている「総評」「提案」を参考に、生徒の性格特性にあった方法を検討する機会をもってみてはいかがでしょうか。



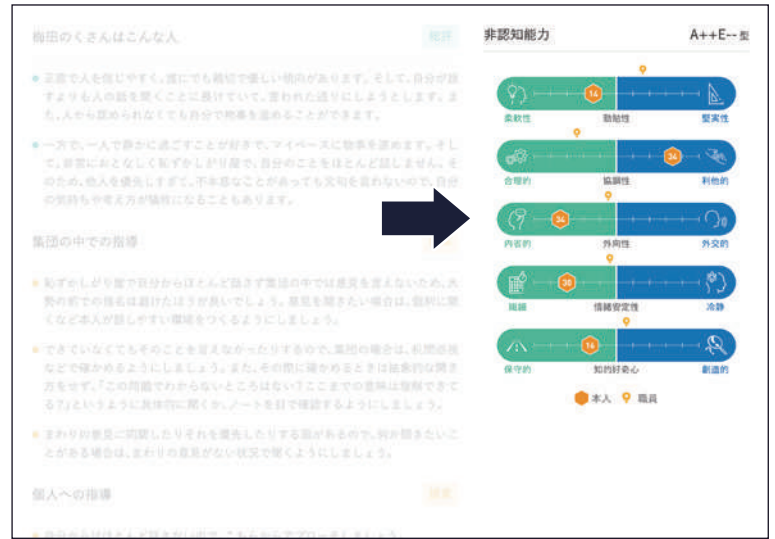
2

検査結果について

非認知能力 / ギャップ検査

非認知能力

各チャートの真ん中が生徒の年齢における平均値で、左右に大きくふれているほどその特性が強くと現れていることとなります。



【検査結果 概要・詳細】に記載

どちらかが良い評価で、もう一方が悪い評価

ではありません

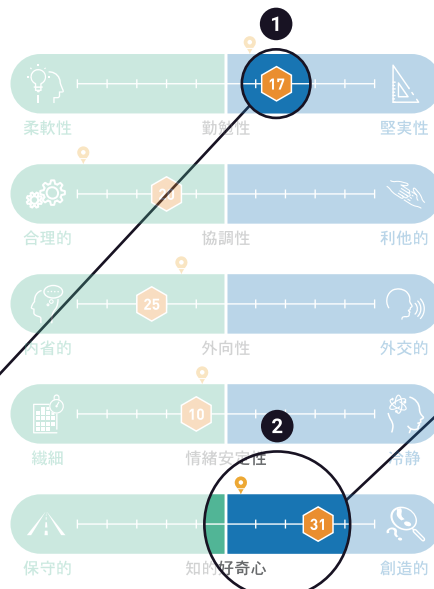
左右どちらにも、端へいくほど長所と短所を持ち合わせています。特性の強弱は、数値が0～20であれば「平均的」、20～30であれば「やや強め」、30～50であれば「強い」という評価となります。(最小値: 0 最大値: 50)

ギャップ検査

先生が生徒の性格特性をどう捉えているかがわかります。生徒の性格特性に合った接し方や学習管理の仕方がわかります。

1

生徒の各指標の数値を相対値で表示。



2

先生の中の生徒像の数値を表示。
左図においては、「知的的好奇心」において、生徒の特性と先生の中の生徒像にギャップがあることがわかります。

総評 / 提案

総評

【検査結果 概要・詳細】に記載された非認知能力（性格特性）のチャートについて、強く出ている（左右に大きくふれている）指標を中心に、生徒がどのような特徴を持っているのかを言葉にしてまとめたものです。



【検査結果 概要】に記載

提案

上記の総評をもとに、「褒め方叱り方などの接し方」や「課題管理の仕方や最適な環境」など各場面における導き方の提案を言葉にしてまとめたものです。

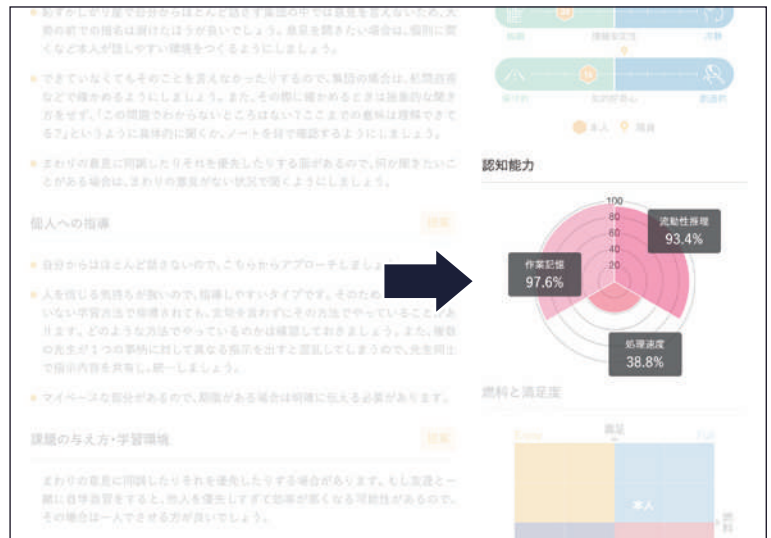


【検査結果 概要】に記載

認知能力 / 状態と傾向

認知能力

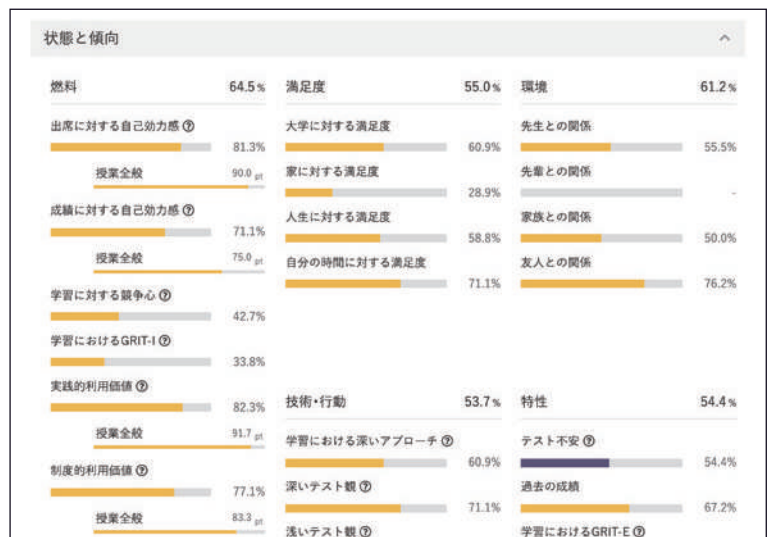
ここに記載されている3つの指標について、各年齢の平均値は50です。この報告書では、「パーセンタイル」という表し方をしています。これは、各年齢の下位から何%の位置にいるかを表しており、テレビなどで稀に見る「IQ 132」のような数値とは異なります。



【検査結果 概要・詳細】に記載

状態と傾向

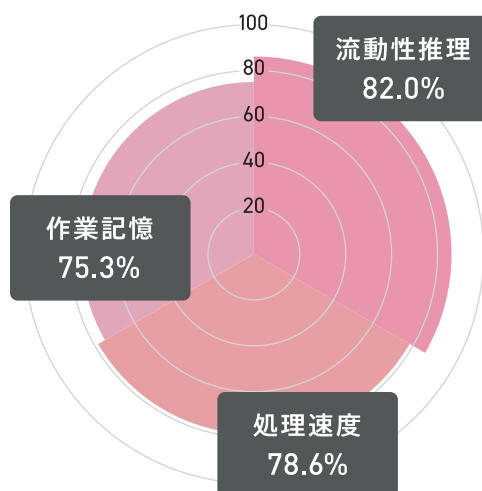
黄色く着色されているバーは、数値が高い（黄色の面積が大きい）ほどポジティブな結果であることを表しています。紫色に着色されているバーは、数値が高いほどネガティブな結果であることを表しています。



【検査結果 詳細】に記載

各指標における評価と提案

認知能力についての評価と提案



流動性推理

物事を多角的に捉えたり新しい場面に適応したりする能力。思考力や応用力。

高い場合

できるだけ自分で考えさせるようにする。答えが出てこなくてもいきなりすべて教えてしまわず、少しずつヒントを出すようにする。

低い場合

伝えたい内容がきちんと理解できていないこともあるので、できるだけわかりやすい言葉で根気強く説明し、わかっているかどうかをこまめに確認する。

処理速度

単純作業を素早く行う能力。

高い場合

計算などは少しずつ難易度を上げていくことで、複雑なものも素早く処理できるようになる。

低い場合

板書を写すのが遅くて授業についていけていなかったり話を聞けていなかったりするので、友達に写させてもらうなどの工夫により補う。計算や文章を読むことが遅いので、限られた時間で「正確に計算する」、「ある程度の量の文章を読む」などの練習をさせる。

作業記憶

新たな情報を一時的に保持し、頭の中だけで作業する能力。

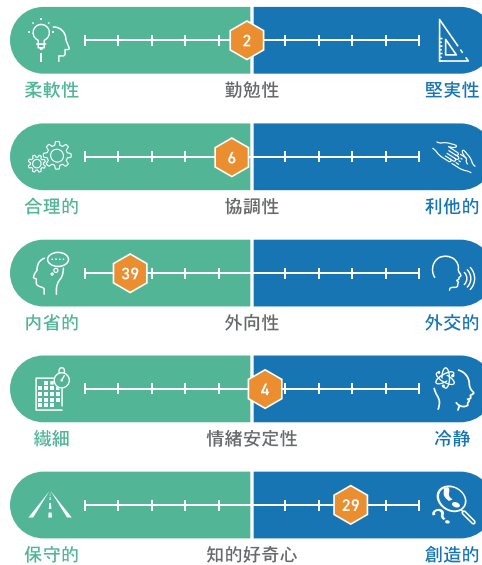
高い場合

文章に線を引いたり筆算をしたりしなくてもある程度できるので、正確さに欠けていなければ無理に書かせる必要はない。

低い場合

頭の中だけで考えることが苦手なので、文章に線を引く、筆算をする、途中の考え方を書かせるなどして、目で見える状況を作る練習をさせる。

非認知能力についての評価と提案



勤勉性

左にいくほど柔軟な対応が得意ですが、衝動的に行動してしまうという側面も持ちます。右にいくほど規律的な対応が得意ですが、頑固な側面も持ちます。

協調性

左にいくほど合理的な行動を好みますが、利己的だと映ってしまうこともあります。右にいくほど利他的な行動を好みますが、追従的で自分がないと映ってしまうこともあります。

外向性

左にいくほど自分の中で考えることを好みますが、受動的だと映ってしまうこともあります。右にいくほど能動的な行動を好みますが、他人にどう見られるかを考えるので依存的だと映ってしまうこともあります。

情緒安定性

左にいくほど用意周到に物事を考えますが、心配性で神経質だと映ってしまうこともあります。右にいくほど冷静に物事を考えることが得意ですが、楽観的だと映ってしまうこともあります。

知的好奇心

左にいくほど一貫性があり一つの物事に集中しやすいですが、新しい事柄にはあまり関心がありません。右にいくと好奇心旺盛で様々なことに興味を持ちますが、そのために意識が散漫になりがちです。

勤勉性



柔軟性

堅実性

説明

ルールや習慣にとらわれず柔軟に考える。

自分の行動を管理して社会的習慣に従う。

特徴

- 要領よく物事を進めようとする
- 臨機応変な対応ができる
- やるべきことを後回しにして自分のやりたいことを優先してしまう
- 取り組みがその場しのぎになりやすい
- 頑張ることによる先のメリットよりも、今をできるだけ楽に過ごしたい

- 責任感が強く、自制心がある
- 物事に対して精力的かつ徹底的に取り組む
- 没頭しすぎて体や精神に支障をきたすことがある
- 几帳面すぎるために効率が悪くなることもある

接し方

- 自己管理が難しいので、計画作りやその管理は本人任せにしない
- 取り組み内容はできるだけ具体的に（いつ、何を、どれだけなど）指示する
- 誘惑の少ない環境で勉強させる。または、家族の目が届くところで勉強させる
- その場しのぎになっていないかを確認する
- 頑張ったら将来どんな良いことがあるかだけを説明するのではなく、今取り組んでいることの終わりがどこなのかを明確にする

- 物事を任せるなどにより責任感を刺激することで、より精力的に取り組む
- 期待をかけすぎてしまうと、体や精神に支障をきたしてまで頑張ってしまうので、一人で抱え込む必要はないことを伝える
- 根を詰め過ぎている可能性があるため、適度に休憩や気分転換をさせる
- 几帳面過ぎて効率が悪い場合もあるので、効率よく進める方法を提示する

協調性



合理的

利他的

説明

理屈や理性で捉えることを大切にする。

人との関わりを大切にする。

特徴

- 自分の意見や考え方を持っている
- 人に流されにくい
- 競争心が強い場合がある
- わがままと捉えられることがある
- 疑い深い面がある

- 正直で人を信じやすい
- 誰にでも親切で優しい傾向がある
- 人の言動を優先しようとする
- 自分の気持ちや考え方を犠牲にすることがある

接し方

- 自分の意見や考え方があるので、意見を言いやすい環境を用意する
- 物事に対するやる気を引き出したい場合は、比較対象（兄弟や友達など）を提示して競争心を刺激する
- 物事のルールや取り組み方を自分に都合よく解釈したり変更したりすることがあるので、決めたことができていなかった場合の約束事まで決めておく
- 人の言うことをすんなり聞くタイプではないので、論理的に根気強く説明する

- 人の意見を聞き入れやすくその通りにしてくれるが、その方法が本人に合っていないと逆効果なので、効果の大小や本人のやりやすさなどをこまめに確認し、微調整や改善をしながら進めさせる
- 人に合わせやすいので、こちらの考えはあとにして、まずは本人の意見を言わせる
- 人を優先するので、集中させたい場合は一人の環境を作る

外向性



内省的

外交的

説明

自分の中で考えることを好む。

人や社会と関わることを好む。

特徴

- 自分が話すよりも人の話を聞くことに長けている
- 人から認められなくても、一人で物事を進められる
- もの静かでマイペース
- 人に言われた通りにしようとする
- おとなしくて恥ずかしがり屋

- 多くの人と積極的に付き合おうとする
- 話好きで流行や変化に敏感
- 物事に精力的に取り組む
- まわりの意見を聞かずに物事を一方的に推し進める部分がある
- 承認欲求が強く、評価や社会的価値感を気にする

接し方

- 家族や兄弟であったとしても人前で意見を聞くことは避け、個別に話せる環境を作る
- できるだけ具体的な質問をする
- 課題や取り組みの進捗ややり方をこまめに確認する

- まずは本人の意見や考え方をしっかり聞く
- 承認欲求が強いので、一方的に否定することは避け、小さなことでも認める姿勢を示してから反対意見等を言う
- 本人のレベルよりも少し上に思える課題や取り組みを与えると、チャレンジ精神を刺激することになる
- 自分本位になってしまってまわりとうまくいっていない場合は、それをしっかり伝えて改善させる

情緒安定性



繊細

冷静

説明

細かなことに気づくことができる。

自信があり、落ち着いている。

特徴

- まずリスクを考えるため、ルールの遵守や物事への準備をしっかりする
- 不安や緊張が強く、小さなことまで気にしやすい
- 自信を持てれば力を発揮できるが、自信がないと体調を崩したり力を出しきれなかったりする
- ちょっとしたことでも不機嫌になる場合がある

- 小さなことは気にしたり心配したりしない
- 問題に対して冷静に対応することができる
- 基本的に本番に強いタイプ
- 楽観的なため、結果的に準備不足になることがある

接し方

- 小さなことでも褒めたり認めたりして、自信を持たせる
- 気持ちが落ち込みやすいので、間違いやできなかったことに対して不用意に厳しく指摘する、からかう、人と比較するなどの行為は避ける
- 不安や緊張を軽減させるため、質の良い準備をして自信を付けさせる
- アドバイスや指示を、ネガティブな言い回し（「～しないとダメ」など）ではなく、ポジティブな言い回し（「～すればより良くなる」など）にする

- 身近にライバルを設定することで、モチベーションが上がる
- 準備不足になりやすいが、そこだけ指摘しても本人は実感できないので、過去にうまく結果が出なかったときのことと結びつけて指示をする
- 学力テストなどではケアレスミスが多くなりがちなので、普段から丁寧な作業（問題文の重要なところに線を引かせる、途中の式や考え方を書かせるなど）をさせる

知的好奇心



保守的

創造的

説明

確かなものや方法を好む。

新しいものを受け入れようとする。

特徴

- これまでに繰り返してきた方法を好む
- 熱中できるものがあれば、それに集中して取り組みやすい
- 新しいことを知る、体験するといったことに関心を持ちにくい
- できるだけ単純な方法を選ぼうとする
- 複数の物事を結びつけて考えるのは苦手

- 新しいことを知ったり体験したりすることを好む
- いろいろなアイデアが浮かびやすい
- 物事の原因や結果を考察し、試行錯誤しようとする
- 広範囲のものに興味を示すため、中途半端になる場合がある
- リスクがあっても新しい方法を試す傾向がある

接し方

- 何かに無理に興味を持たせようとしても難しいので、いろいろな事柄を根気強く与えて、本人が関心を示したものを深掘りする
- 学習において、短期的に成果を出したい場合は、パターン学習が効果的
- 新しい取り組みの方法は、できるだけ具体的に説明する。(抽象的すぎると、理解できていないため行動できない)

- できるだけ物事に対する理由や背景、ストーリーや大人の経験談などを提示した上で、取り組む内容や方法を指示する
- 理由もなく型にはめるような指示は逆効果
- いろいろなアイデアが浮かびやすいので、考える時間を十分に与える
- 意識がいろいろな方向に向きがちなので、優先順位や進捗をこまめに確認する
- リスクのあることを試す場合があるので、どういうメリットまたはデメリットがあるかを示す

状態と傾向についての評価と提案

燃料

出席に対する自己効力感



学習に対する競争心



実践的利用価値



興味



成績に対する自己効力感



学習におけるGRIT-I



制度的利用価値



技術・行動

学習における深いアプローチ



深いテスト観



浅いテスト観



環境

先生との関係



先輩との関係



家族との関係



友人との関係



満足度

家に対する満足度



人生に対する満足度



自分の時間に対する満足度



特性

テスト不安



過去の成績



学習におけるGRIT-E



燃料

学習に向かう意欲がどれだけあるかと、その意欲の有無の原因がどこにあるのか。

技術・行動

学習に対して、どういう行動をとるか。

環境

先生、先輩、家族、友人との関係がどれだけ良好と感じているか。

満足度

人生、家、自分の時間に対してどれだけ満足できているか。

特性

試験に臨む際に、どれだけ不安や緊張を感じやすいか。

燃料

学習に向かう意欲がどれだけあるかと、
その意欲の有無の原因がどこにあるのか。

出席に対する自己効力感



成績に対する自己効力感



学習に対する競争心



学習におけるGRIT-I



実践的利用価値



制度的利用価値



興味



自己効力感

自身で、どれだけの結果を出せる（残せる）と
考えているのか。

NOCC教育検査において**自己効力感**を測定しているのは、自分に対する自信の有無ではなく、学習という行為に対する自信の有無を測定するほうが家や学校での指導に役立つと考えているためです。

自己効力感の数値は、本人がどれくらい結果を残せるかを直感的な数値で捉えているので、何をイメージしてその数字になったのか（学校でのテストの結果？総合的な結果？入試などの試験？）をヒアリングすることで、どこに不安を抱えているかを見つけ、それを解消できるようなアドバイスやサポートをしましょう。

自己肯定感との違い

自己肯定感という言葉もありますが、それは自分を肯定することができるかどうかを表すものです。

自己肯定感が高ければ、

うまくいった場合

次回もこの調子で頑張ろう。

うまくいかなかった場合

足りなかった部分を補えば、自分なら次はできるはずだ。

と考え、低ければ、

うまくいった場合

今回はたまたまうまくいっただけ、まぐれだ。

うまくいかなかった場合

やっぱり自分には力がないんだ。

と考えます。

つまり、自己肯定感とは、**自分に対してどれくらい自信を持っているか**と言い換えることができます。

学習に対する競争心

学習において競争心を持って臨んでいるか。

この数値が高い場合は、まわりの誰かをライバルに設定することで、よりやる気を出してくれる可能性があります。逆に、低い場合に誰かをライバルとして設定してもあまり効果は望めません。

学習に対するGRIT-I

学習において、やり始めたことを、気を逸さずに継続することができるか。

この数値が低い場合、いったん何かをやり始めても、途中でほかのものに気を取られてしまったり、目標設定を変更したりしてしまい、道が逸れていきやすいということです。中長期的に目標を立てて行う取り組みに対して、時間がある程度経過したタイミングで、はじめに決めたやり方や目標などを確認し、逸れていかないようにこまめに修正していくとよいでしょう。

実践的利用価値

学習内容が日常の生活や思考で役立つと捉えているか。

この数値が高い場合は、学習に対するモチベーションが、日常に役立てるところにあるということです。日常に役立たないと感じてしまった内容の学習は、密度が小さくなる可能性があるため、役立つ場面をイメージさせるとモチベーションアップにつながります。

制度的利用価値

学習内容が入試や就職に役立つと捉えているか。

この数値が高い場合は、学習に対するモチベーションが、入試や就職のために役立てるところにあるということです。途中でやる気が低下しているときには、最終目標である入試や就職をイメージさせることで、モチベーションの継続につながります。

興味

学習内容を面白いと感じているか。

この数値が高い場合は、学習内容そのものに面白さや魅力を感じているということなので、基本的には自分から学習に向かってくれるでしょう。ただし、科目や分野の好みによって、学習の密度が偏る可能性があります。バランスを取って学習できるようにサポートするとよいでしょう。

技術・行動

学習に対して、どういう行動をとるか。

学習における深いアプローチ

深いテスト観

浅いテスト観

学習における深いアプローチ

学習に対して、課せられたものだけでなく掘りしよと考えているか。探究心。

この数値が高い場合は、「ただ答えが出れば良い」、「ただ暗記すればよい」という考え方ではなく、その理由や考え方をしっかりと学ぼうとします。苦手な科目や分野の学習の際、その部分を根気強く学ばせ、しっかり理解することができれば弱点を補うことができるかもしれません。

深いテスト観

テストは自分を改善するためのもの、自己分析するためのものと考えているか。

この数値が高い場合は、「テストは学習における自分の強みや弱みを分析し、改善するためのもの」という考え方を強く持っています。成績を戦略的に上げたいときには、過去のテストのできなかったところを分析したりもう一度勉強し直したりすることで、モチベーションや成績そのものをアップさせることにつながる可能性があります。

浅いテスト観

テストは勉強を強制的にさせるためのものと考えているか。

この数値が高い場合は、「テストは無理矢理勉強させるための手段である（テストがあるから仕方なく勉強する）」、「テストがなければ勉強しない」という考え方を強く持っています。習熟度をチェックするようなテストがしばらくないと勉強が疎かになる可能性もあるので、規模の小さなものでも良いのでテストあるいはそれに準ずるものに定期的に取り組みせると良いでしょう。

両方とも高い場合は？

深いテスト観と**浅いテスト観**が両方高い場合は、テストのために仕方なくという考えを持ちつつも、それによって自身を改善または成長させることに繋がるというポジティブな考えも持っているといえます。

環境

先生、先輩、家族、友人との関係がどれだけ良好と感じているか。

先生との関係



先輩との関係



家族との関係



友人との関係



満足度

人生、家、自分の時間に対してどれだけ満足できているか。

家に対する満足度



人生に対する満足度



自分の時間に対する満足度



特性

試験に臨む際に、どれだけ不安や緊張を感じやすいか。

テスト不安



過去の成績



学習におけるGRIT-E



テスト不安

試験に臨む際に、どれだけ不安や緊張を感じやすいか。

この数値が高い場合は、テスト本番では不安や緊張を強く感じ、力を発揮できないことが多いです。本番に向けての準備や練習を徹底することで、力を発揮できるようにサポートしましょう。

例

- 似たような問題をたくさん解かせて慣れさせる
- 普段から制限時間を設ける
- 少し高いレベルで練習させて余裕を持たせ、本番で100%発揮できなくても大丈夫な状況を作る

過去の成績

過去にどれだけの成績をとってきたか。

この数値を単独で見るとよりは、自己効力感と比較するとよいでしょう。過去の数値よりも現在の自己効力感のほうが高い場合は、何かうまく結果を残せないと考えているかもしれません。ヒアリングをして、原因を探ってみるとよいでしょう。

学習におけるGRIT-E

学習をどれだけ粘り強く続けられるか。

この数値が低い場合、いったんやり始めた物事を継続しにくいということです。物事を中長期的に行うことは難しいと言えるので、短期的な計画を積み重ねるほうがよいでしょう。